

令和 3 年 4 月 14 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
591245

代表者 校 園 名 :	大阪市立大江小学校
校 園 長 名 :	三木 健史
電 話 :	06-6771-2425
事務職員名 :	西川 麻美
申請者 校 園 名 :	大阪市立大江小学校
職 名 ・ 名 前 :	指導教諭・稲井 雅大
電 話 :	06-6771-2425

## 令和 3 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	<p style="text-align: center;"><b>深い学びを実現するカリキュラムマネジメントの展開 ～生活科・総合的な学習の時間「はぐくみ」を中核にして～</b></p>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領でめざす思考力の育成を目指す</li> <li>○ 「地域学習」を核とした生活科・総合的な学習の時間での単元開発</li> <li>○ 生活経験を学習に生かすため隣接幼稚園 (5 歳児) との連携を充実させる</li> <li>○ 学びを確かなものにするために、具体的な到達目標 (ルーブリック) を活用する</li> <li>○ カリキュラムマネジメントに取り組むことで教職員全体の資質・能力の向上</li> </ul>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>本校は1400年の歴史ある四天王寺に隣接し、校区には歴史と伝統のある名所や旧跡が多く残っている。また、大阪三大祭りの一つに挙げられる愛染祭や、子供だんじりを巡行している大江祭など今も歴史を肌で感じる行事も多くあり、子供達は毎年楽しみにしている。小学校は創立148年を迎え、生活科と総合的な学習が設立された際には、それら地域との繋がりを核とした「はぐくみ」の時間のカリキュラムを作成し実施してきた経緯がある。</p> <p>しかし、20数年を経て、それらは学年単体としての取り組みにとどまり、系統性や他教科とのつながりが見えにくいものとなっていた。このような課題は、新学習指導要領における視点「地域に開かれた教育課程」づくりに向けての改善ポイントとなるといえる。</p> <p>そこで昨年度の研究では、その「はぐくみ」の時間に焦点をあて、深い学びを実現するためのカリキュラムを再構築した。具体的には平成13年度末に作成した「はぐくみ」の年間指導計画を生かしながら、地域学習の視点を取り入れた単元の再開発をして授業研究を行った。その際に大江小学校区や天王寺地域への愛着や誇りがもてるよう、探究的な学習を構成してきた。特に6年生で取り組んだ子ども達自身による「ルーブリック」の活用は、深い学びの実現に向けて効果的であった。本年度は、昨年度の「ルーブリック」の成果を全学年に広げ、カリキュラムの完成を目標として取り組みたい。</p> <p>さらには以前より実施している隣接幼稚園との交流もカリキュラムに組み込むことで、生活経験を学習に生かす9年間の深い学びを実現するカリキュラムとしていく。</p> <p>申請者は大学院キャリアアップ派遣事業において、兵庫教育大学大学院にて平成29年度から2年間「幼小接続期サイエンスカリキュラムの構想」のテーマで国内外の研究協力者と共にカリキュラムを開発してきた。本研究では、そこで得た理論を基盤とし、研究体制を維持、発展させながらカリキュラムマネジメントを実証的に研究していく。また、指導教諭として本校教職員の資質・能力の向上も図っていく。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究組織の編成と年間研究計画案作成 研究全体会（研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討） 教員への事前アンケート作成・実施・分析 研究全体会（アンケート分析を受けた内容で）</p> <p>5月 教材研修（授業の視点を確認、単元開発） 児童への事前アンケート作成・実施・分析</p> <p>6月 研究授業①②（成果・課題について協議し改善方法を検討） 日本生活科・総合的学習教育学会静岡大会 （昨年度の研究成果と本年度の中間発表、参会者アンケート）</p> <p>7月 幼小合同カリキュラム研修会①（大学教授を招いてカリキュラムマネジメント研修）</p> <p>8月 研究全体会（中間報告、共通理解）</p> <p>9月 研究授業③（成果・課題について協議し改善方法を検討）</p> <p>10月 研究授業④⑤（成果・課題について協議し改善方法を検討）</p> <p>11月 研究授業⑥（成果・課題について協議し改善方法を検討） 第30回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 大阪大会参加 （参加後、内容の周知及び研究内容に活用）</p> <p>12月 幼小合同カリキュラム研修会②（大学教授を招いてカリキュラムマネジメント研修）</p> <p>2月 教員・児童への事後アンケート実施（分析・結果の考察） 研究全体会（成果と課題の検討、次年度の計画）</p> <p>3月 研究紀要発行</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b> 深い学びを実現するための単元開発やルーブリックを充実させることにより、児童の思考力向上に取り組む</p> <p>《検証方法》 年度当初と年度末（実践後）に児童アンケートを実施し、「学習したことをふりかえることができた」「より良い方法を考えている」と答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b> 地域と連携した活動や、人・自然・文化（もの）との関わりを通じた豊かな体験活動が児童の学習意欲を高め、地域に愛着や誇りがもてるような態度を育てる。</p> <p>《検証方法》 活動の事前と事後において児童アンケートを実施し、児童の「関心・意欲」「地域への愛着」に関わる項目で5ポイント上昇させる。</p> <p><b>【見込まれる成果3】</b> 隣接する大江幼稚園と連携することで、幼小接続期の「思考力育成」に関する実践的課題解決に向けて共に取り組んでいくことができる。</p> <p>《検証方法》 幼稚園教員へのアンケートにおいて、取り組みを肯定的に回答する割合を90%以上とする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果4】</b> カリキュラムマネジメントを通して教員の資質・能力の向上</p> <p>《検証方法》 カリキュラムマネジメント・チェック表を用いて実践前後に教員を対象とした10項目のアンケートを実施、資質・能力の向上を分析する。</p> <p><b>【見込まれる成果5】</b> 「深い学び」の実現に直結し、プログラミングや評価を含めた「生活総合はぐくみカリキュラム」をデザインすることができる。</p> <p>《検証方法》 日本生活科・総合的学習教育学会静岡大会にて中間的な成果を発表（申込済）。参会者へのアンケートで本校の取り組みへの肯定的な回答が80%以上とする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <b>報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</b></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="408 972 1075 1043"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 4 年 1 月 19 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立大江小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>日本生活科・総合的学習教育学会静岡大会にて実践発表（申請済）</p>	日程	令和 4 年 1 月 19 日	場所	大阪市立大江小学校
日程	令和 4 年 1 月 19 日	場所	大阪市立大江小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>本校は、創立148年目で歴史と伝統のある学校である。校区内には四天王寺、天王寺七坂など歴史と伝統のある名所や旧跡が数多くあり、地域学習を核とした生活・総合的な学習のカリキュラム開発に適している。また、隣接する大江幼稚園があり、交流を進めていくことで生活経験を学習に生かすことができ、幼小9年間の学びを実現するカリキュラム開発ができる。本校の地域の特色を生かした研究を行うことで、児童に郷土の伝統と文化を尊重し、自ら育った地域を愛する心情を育むことができると考える。このように地域の教材や学習環境を積極的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を育て、探究的な学習を実現することによって、思考力の育成を図りたい。</p> <p>なお、申請者は本校の指導教諭であり、元勤務校の大阪教育大学附属平野小学校で9年間に渡り生活科・理科を中心に研究実践を積んできた。そこでは研究主任として幼小中高15年間の接続カリキュラム開発に取り組み、成果は書籍や研究会で全国に発信している。一昨年度は、本校においてプログラミング的思考の育成に焦点をあてたカリキュラム開発を行ってきた。その内容は評価され、昨年1月には「令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞している。申請者の経験が本研究に活かされ、教職員全体の資質・能力の向上に寄与すると確信する。</p>				